

善照寺
寺報

ぜんしょうじ

第16号

〒272-0131

市川市湊十八番二十号 善照寺
電話 四七(三五七)二二三一
FAX 〇四七(三九七)一三三二

ご寄付ありがとうございます

善照寺住職 今岡達雄

今年十月に入ってから晴天が少なく、雨の多いまことに天候不順の年です。去年の寺報「ぜんしょうじ」をみますと、

ろいろと出費が重なる中、ご寄付に依りていただきました皆様には厚く御礼申し上げます。

第一面に暴風雨よけのブルーシートを周りに張った本堂の写真と、雨漏りから守るためにあげた畳の写真が載せてありました。さいわい、今年関東を直撃する大きな台風が来ていませんので助かっています。

これまでの台風シーズンは、窓からの雨漏りが長年の悩みで、畳をあげ雑巾で水を拭きながら台風が過ぎ去るのをじっと待ちました。鐘楼は土台の石組みが緩みはじめ、上側の石は崩れはじめたり手を加えなければいけない時期に来ておりました。また、平成二十三年は宗祖

十月に入って早々、本堂と鐘楼の補修工事資金、ならびに浄土宗の各総大本山において計画されている宗祖法然上人大遠忌事業への協力資金に関しての寄付のお願いをいたしました。い

法然上人の八百回忌に当たります。総本山知恩院、大本山増上寺、善光寺大本願など浄土宗の八つの総大本山では、八百回忌にあわせて本堂や庫裏などの整

備が計画され、私ども寺院にも資金協力が求められています。

本年一月の善照寺役員会でこの話をしたところ、必要資金を研究せよとの意見になり、複数の建築業者から提案と費用見積りを、総大本山の寄付要請額の情報収集いたしました。本年九月に役員会を開催し、本堂については補修を行う、鐘楼については解体修理を行う、総大本山への協力については要請額の半分程度を目安にすることが決まりました。総費用を三千万円、半額を寺から拠出し、残りを檀信徒の皆様からの寄付でまかなうことになり、皆様に寄付のお願いを申し上げた次第です。

本堂補修工事は十月中旬からはじめており、十夜会までには完成する予定です。鐘楼の工事は、年明け一月に工事に入る予定です。工事中は何かとご迷惑をおかけすることになります。ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

合掌



昨年は雨漏りがしないようにブルーシートで覆いましたが、今年は補修工事のシートです。



窓枠から雨漏りしないように従来のサッシを取り外し、窓回りを全面改装しています。

住職法話

お十夜(じゅうや)の話

お十夜とは

お十夜のいわれは無量寿経という教典に書かれています。无量寿経は阿弥陀仏の成り立ちを記した教典で、そこには次のように書かれています。

「この五悪に満ちる世間において、正しい心をおこし、行いをつつしんで生活し、功德の本たる六波羅蜜の行や五善を修する正しい心をもつて、一日一夜八斎戒をたもつならば、その功德は阿弥陀仏の極楽浄土において百年の間、善根を積んだよりすぐれた功德がある。なぜなら極楽浄土は全てが調和した処であり、誰もが悪を積み髪ほどの小さな悪も存在しないからだ。さらに十日十夜のあいだ善根を積むならば、その功德は他方の仏国において千年の間修

した善根よりもすぐれているのである。」

このお話のとおり十日十夜にわたって善根を積むことがお十夜の基本です。ところで善根を積むとはどういうことでしょうか。善根の基本は六波羅蜜という修行です。その内容は「布施」「持戒」「忍辱」「精進」「禅定」「智慧」の六種の修行ですがどれも私たちには困難な修行です。そんな私たちにも出来る善行がたった一つ有りま

お念仏の話

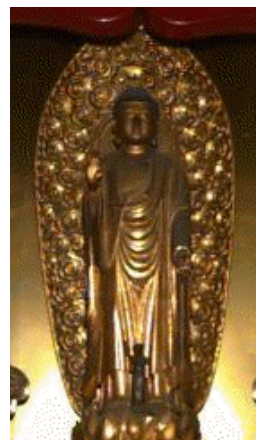
お念仏では「南無阿弥陀仏」とお唱えします。漢字で書かれており、読み方も馴染みのものですからすっかり中国から伝わってきた漢語と思いますが、実は古代インド語で、ナモアマター ブツダといえます。

印度語 ナモ アミター
音写 南無 阿弥陀 仏
意味 帰依 無量寿・光 覚者

ナモとは帰依するということで「勝れた者に対して、自分自身の全身全霊を投じて、信じ頼ること」という意味です。アマターの「ア」は「できない」という意味、「ミター」はメートルと同じ語源で「量る」という意味、「アマター」と合わせて「量ることが出来ない(無量)」という意味になります。何が量れないのかというと、アツバ(光、輝き)と、アユス(命、寿命)です。「ブツダ」は覚った者という意味で「仏、覚者」となります。結局「永遠の命と溢れんばかりの光に満ちた覚れる者よ、どうかお願いします」と言っているのですね。

もうお分かりになったように無量寿とは阿弥陀仏のことを示していますから、无量寿経とは阿弥陀仏のことがかかれた教典

です。特に无量寿経と呼んだ場合には、阿弥陀仏の成り立ちを記した教典です。ではこの教典にはどんなことが書かれているのでしょうか。ごく簡単にお話ししましょう。



阿弥陀仏の成り立ちの話

考えることもできないくらい昔、世自在王如来という仏様があられました。この仏の時代に一人の国王があり、世自在王如来の説法を聞いて発心し、王位をすてて法蔵という名の修行者(法蔵菩薩)になりました。

法蔵菩薩は世自在王如来に「覚り」を得るために必要な修行と、人々を救うことのできる浄土について説かれるように願いました。世自在王如来はその

願いを聞いて、様々の仏様達の国々とそこに住む人々の話をされ、それぞれの国々の様子を見せてくれました。法蔵菩薩はこのような話を聞き、それぞれの浄土を見てから五劫の間考えました。そこで、覚りを開いた後に建設する浄土と人々をどのように救うべきかについて、四十八の誓願（本願）を建てられました。そして、この誓願（本願）がすべて実現できるようになるまでは、仏には成らないとの覚悟をあらわされ、厳しい修行に入られました。そして、四十八の誓願（本願）をすべて達成できるように、法蔵という菩薩から阿弥陀という名の仏になられ、西方十万億のなかに「スカーバティ（幸いあるところ）」と名づける浄土を構え、そこにいまでも住んでいらっしゃるのです。

八の誓願を一つ一つ吟味され、阿弥陀仏の浄土に行くために私たちにとってスタートとなる、十八願を最も大切な誓願とされました。

「設我得仏 十方衆生 至心信樂 欲生我國 乃至十念 若不生者 不取正覺」

その意味は「私が仏になるためには、一切の人々が、誠の心をもって信じ願って、私の国である極楽浄土に生まれたいと欲して、わずか十回でも私の名を呼んだならば、必ず極楽浄土に往生することが出来るようにしよう。もしできなかつたら仏には成らない」となります。つまり、私たちの側からは、「私たちには、誠の心をもって信じ願って、阿弥陀仏の幸せの国に行きたいと願って、わずか十回でも阿弥陀仏の名を呼べば、必ず連れて行ってもらえる。」という意味になります。

十八番目の本願

浄土宗の宗祖法然上人は四十

なぜ極楽浄土を願うのか

ところで、私たちは何故極楽

浄土を願うのでしょうか。（一）そこは不安や苦悩がなく、安心して暮らせるからです。つまり私たちが生活している娑婆世界は、楽しいこともありますが不安に満ちた苦しいことばかりなのです。ですから永遠の安心を願うのです。（二）阿弥陀様の説法を聞き、心の平静（悟り）を得られる。私たちは欲にまみれ愚かな間違ばかりしているような人間ですから、修行さえままならず、この世の中で心の平静（涅槃の境地、覚りの境地）に達することは決して出来ないのですが、極楽浄土ではそれが出来ます。（三）超能力（宿命、天眼、天耳、他心）を得てこの世の状況把握が出来る。極楽浄土で修行すると色々な神通力（超能力）を獲得でき、この世に残してきた人々がどのように暮らしているかを見ることが出来ます。（四）先に往生した人々と再び会うことが出来る。つまり、死に別れた

人々と再会することが出来ます。このようなことが出来るようになるのですから、往生した後については何にも心配することとは有りません。ですから（五）極楽浄土に往生できるということは、現世での安心を生み出すのです。

お十夜にはお念仏

いつか、その時には極楽往生できますように。毎日毎日お願いできませんから、特別な時間を作ってお念仏する。それがお十夜会です。皆さんそろって手を合わせてお念仏しましょう。

（住職法話）



善光寺団体参拝報告

寺報「ぜんしょうじ」第十五号でご案内してありました善照寺青年会慧日会企画の善光寺団体参拝を予定通り十月一、二日に実施しました。おかげさまで天候にも恵まれ大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。また、阿弥陀霊場である善光寺におきましては早朝から厳粛な法要に参加し、皆様方が祈念する各霊位、この団参に参加する予定であった慧日会会員の故平松栄様、世話人でもあり会員の家族である故水野忠臣様の特別なご回向を勤めました。参加者は住職、世話人（高橋秀夫、小川与弘）、慧日会（高橋茂雄、小川与志明、青山純一、伊東正行、高橋保行、石田 豊、及川光則、青山育雄）の十一名でした。なお、今年は国勢調査と重なり一部会員の方々には参加しにくい旅程となつてしまいましたことお詫びいたします。



宿泊した宿坊「淵の坊」前にて、宿坊とは宿泊施設を持った寺院で、淵の坊は浄土宗寺院です。



10月1日出発にあたって、善照寺の正門前で記念写真を撮りました。

十夜法要浄財袋

善照寺の年中行事には初念仏、彼岸、お盆、施餓鬼などがありますが、「お十夜」は特別な法要です。なぜ特別かというとこの法要は阿弥陀様への感謝のためだけではなく、秋の収穫祭の意味があるからです。

行徳地域は半世紀前まで半農半漁の農村でしたから、秋には色々な農作物の収穫が行われました。一年の労働の成果を喜び、恵みを与えてくれた自然に、御守りいただいた先祖代々の霊に、また仏様に感謝をするために、採れた農作物をお供えして法要を行ったものです。つまり、阿弥陀様への感謝の法要にあわせて自然の恵みに感謝し、そしてお塔婆をあげ先祖や先亡諸霊の供養を行ったのです。

にお供えしました。農業をしていない檀信徒の方はお米の代わりにお金を「十夜法要浄財袋」に入れてお布施としていただきました。その名残がお配りした「十夜法要浄財袋」です。

お塔婆の申込みとお布施

お塔婆の申込みは遅くとも、十一月十日までにお願いします。また、遠方の方には「出欠のはがき」を同封してあります。このはがきで出欠・塔婆等についてお知らせ下さい。近隣の方々には「出欠はがき」は入られておりません。塔婆のお申込みはお電話で結構です。「十夜法要浄財袋」を同封しました。お十夜のお布施と塔婆代はこの袋に入れてお持ち下さい。

お塔婆は一基四千円です。これとは別にお十夜供養のためのお布施（ご回向料）を包んで下さい。金額はお気持ち次第ですが平均五千円程度です。

（住職）